

第25回 森と花の祭典 みどりの感謝祭

育てよう 未来へつなぐ 豊かな緑

毎年4月15日から5月14日までは、多くの人たちに緑について理解と関心を高め
てもらうために設けられた「みどりの月間」です。

森と花の祭典「みどりの感謝祭」は、みどりの月間に全国各地で行われる各種緑
化行事の締めくくりとして開催されています。

今年は5月9日～10日の2日間にわたって東京都日比谷公園等を会場に開催さ
れ、併催された「みどりとふれあうフェスティバル」とともに森林と緑の恵みを実感
できるイベントとなりました。

今年で25回目を迎えた「みどりの感
謝祭」の式典は、秋篠宮同妃両殿下の
ご臨席のもとに、日比谷公会堂で開催
されました。

東京消防庁音楽隊の演奏と港区白金
小学校合唱団の合唱のプロローグには
じまり、開会宣言、主催者代表挨拶に
続いて、祭典の名誉総裁・秋篠宮殿下
からお言葉を賜りました。

続いて「みどりの文化賞」顕彰や、緑
の少年団・花いっぱい運動の代表に対
する苗木と花の特別贈呈、東日本大震
災復興緑化用苗木の贈呈、山火事予防
ポスター用原画入賞作品の表彰が行わ
れました。

式典終盤では平成28年全国植樹祭開
催地・長野県の西条小学校みどりの少
年団の代表が「地域で昔から大切にさ
れてきた森のかかわりを受け継ぎ、

木を植え、育て、自然の恵みをいただ
くという活動に取り組んでいきます」
と誓いの言葉を会場内の少年団とも
に述べました。

式典終了後には、ステージ上で参加
者が記念撮影をするなど、会場は穏や
かな空気に包まれていました。



はたけやま しげあつ
受賞者 畠山 重篤 氏

昭和18年生まれ。平成元年に漁師仲間とともに「牡蠣の森を慕う会」を結成し、気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山で、漁民による広葉樹の植林活動を開始し、20年以上にわたって活動を継続されています。その活動は、「森は海の恋人」運動と名付けられ、小中高等学校の教科書にも取り上げられるなど全国に広がっています。

京都大学フィールド科学教育研究センターの社会連携教授を務め、常に人と自然生態系の連携について考え、自然のつながりを体験する環境教育を実施し、豊かな海を守るために森を大切にす



「みどりの文化賞」は、緑や森林に関して顕著な功績のあった個人または団体を対象として顕彰する制度です。平成2年から緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資することを目的に、公益社団法人国土緑化推進機構によって実施されています。

第25回みどりの文化賞は、宮城県気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山で、永年にわたって広葉樹の植林活動に携わってきた畠山重篤氏に贈られました。

第25回みどりの文化賞



木や自然素材を使ったグッズが集合「MOTTAINAIでづくり市」



自然との一体感を味わう「ツリークライミング体験」



丸太切り体験

5月9日(土)・5月10日(日)みどりの感謝祭

みどりとふれあう フェスティバル

みどりとふれあうフェスティバルは、「みどりの恵みと木のぬくもりを『見て』・『触れて』・『食べて』感じる憩いの広場」をテーマに、2日間にわたって日比谷公園で開催されました。

イベントには、森にふれ、森を育み、木をつかう企業、団体、NPO等が出展。木のクラフトやツリークライミング体験、鹿肉などのジビエ料理など、子どもから大人まで楽しめる内容に、家族連れをはじめ多くの人で賑わいました。



紙すき体験



ジビエ料理



木のおもちゃで遊ぶ「木育ひろば」



木の香りに包まれる「かんなくずのプール」